市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1	伊江村HPサービス拡充強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－(ウ) 観光客の受入体制の整備
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	観光客の誘客拡大を目指し、村のＨＰにおいて観光情報や防災情報など国内外に情報発信するため多言語対応や船舶予約システムなど、コンテンツ開発やシステム構築を行いの機能拡充強化を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	27,000				
	(b)予算現額	26,460				
	(c)増減額(b-a)	▲ 540				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	26,460				
B. 執行済額		26,460				
うち交付金充当額		21,168				
次年度繰越額		-				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		540千円の予算減額は入札残によるものであり、事業は適正に執行された。 ※沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所については、記載箇所を誤っていたため正しい箇所に修正（第3章－2－(3)－ウ（該当箇所なし）→第3章－3－(2)－(ウ) 観光客の受入体制の整備				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
伊江村HPシステム構築（多国語対応･動画対応･CMS機能改良･スマートフォン対応等）	目　標	（　構築　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	構築済			
車両航送予約システム構築（予約管理機能構築）	目　標	（　構築　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	構築済			
車両航送業務システム構築（データベース･精算システム構築）	目　標	（　構築　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	構築済			

達成状況説明：平成２６年度は、伊江村HPシステム、車両航送予約システム、車両航送業務システムにつきそれぞれ個別機能の構築を目標とし、完了した。ハンディを持つ人への配慮、防災情報、クロスメディア対応環境、多言語環境に対応した情報発信ができるようになった。また、車両航送に係るシステムが構築され、観光客等の利便性向上が図れた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	年度	年度	目標値（年度）
伊江村HPシステムの構築	目　標	（　）	（　構築　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		構築済			
車両航送予約システムの構築	目　標	（　）	（　構築　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		構築済			
車両航送業務システム構築	目　標	（　）	（　構築　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		構築済			

進捗状況説明：観光客の誘客拡大を目指し、村のＨＰにおいて観光情報や防災情報、国内外に情報発信するため多言語対応や船舶予約システムなど、コンテンツ開発及びシステム構築を行い機能拡充強化を図った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	HPの強化により、視力の弱い人等のハンディを持つ人に対し配慮した機能、緊急時に役立つ防災情報、さらに、観光や文化面での情報を携帯電話やスマートフォン、タブレット、テレビ等、クロスメディアに対応する環境を整備した。 また、増加する外国人観光客へ対応するための多言語対応や、自動翻訳機能による情報発信が可能となった。 さらに、車両航送に係るシステムを構築されたことで、観光客のフェリー乗船手続きが簡素化され、利便性の向上が図れている。	平成26年度に構築したHPと車両航送システムを連携させ、更なる利便性向上を図る必要がある。 また、迅速な防災情報の提供や、多様な観光情報等を更に充実させ、住民、情報弱者や観光客等へ安心安全で利便性の高い情報を発信する必要がある。

今後の取り組み方針

伊江村HPシステムと車両航送予約システムの機能連携及び、車両航送業務システムとフェリー券売機システムの構築並びに機能連携を行い、住民を含めた国内外の観光客の利便性向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,460	26,460	21,168	5,292	0

伊江村
26,460千円

委託料
26,460千円

請負コンソーシアム
代表者
コンピューターネットワーク株式会社
26,460千円

（伊江村HPサービス拡充強化業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算減額は入札残によるものであり、事業は適正に執行された。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、金額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2	離島防災備蓄品設置対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)

事業内容

本村の地域防災計画において、避難場所を数か所選定しているが、防災に関する備蓄品、備蓄倉庫が整っていないという状況である。地震･津波等で避難所となる場所に、非常食や生活必需品等の整備及び備蓄品の収納可能な備蓄倉庫を整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	54,910				
	(b)予算現額	36,720				
	(c)増減額(b-a)	▲ 18,190				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	36,720				
B. 執行済額		36,720				
うち交付金充当額		29,376				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：18,190千円の予算減額が生じているが、入札残によるものであり、事業は適正に執行された。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
備蓄倉庫の整備 8ヵ所	目 標	（ 購入整備 ）	（ ）		（ ）
	実 績	整備完了			
備蓄用品･資機材等の整備 8ヵ所分	目 標	（ 購入整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実 績	整備完了			

達成状況説明：計画通り防災備蓄庫及び各種備蓄用品と資機材を避難所(公民館)に整備し、災害対策として備える事ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
備蓄倉庫の整備8ヵ所	目 標	（ ）	（ 購入整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実 績		整備完了			
備蓄用品･資機材等の整備8ヵ所分	目 標	（ ）	（ 購入整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実 績		整備完了			
伊江村地域防災計画に基づき、非常用食糧の目標達成率100%(2250食)整備【内訳:村の人口(観光客含む)の1/20の3日分】	目 標	（ ）	（ 購入整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実 績		整備完了			

進捗状況説明：村内の避難所(公民館)に、防災備蓄庫の設置とともに、地震･津波等の災害に備え救急関連、生活用品関連、運搬･救助関連、照明･発電機関連、食料関連の備蓄品を整備をした。
今後は、災害時における資機材の取扱い講習会をするとともに、定期的に村の総合防災訓練を実施し、資機材等の使用訓練などを通して、災害時に即時に対応できる環境の構築を図る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村は離島であるため地震や津波等の大規模災害が発生した際に、避難所生活が強いられる可能性があることから、大規模災害に備えるため防災備蓄品や資機材を整備した。また、地域防災計画に定めた避難所（公民館）に整備をしたが、海抜の低い1施設分については、海抜の高さがある程度確保されている小学校敷地内へ整備を行った。このことから、住民等への備蓄品設置箇所である避難所の周知を図る。	避難所の箇所の周知や、各種備蓄品・資機材の取扱い方について、講習会等を実施し防災及び減災への啓蒙活動等を行う。

今後の取り組み方針

定期的に、村の総合防災訓練を実施するとともに、各種資機材等の取扱い講習会や、非常食の炊出し訓練等を行い、災害時に即時に対応できる住民の環境の構築を図り、災害に強い島づくりを目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
36,720	36,720	29,376	7,344	0

伊江村
36，720千円

→ 備品購入
36，720千円

→ アースウィング株式会社
36，720千円

（防災備蓄庫　8ヵ所
備蓄用品・資機材等の整備　8ヵ所
（救急関連・生活用品関連・運搬・救助関連・照明・発電機関連・食料関連）
非常用食糧）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定については入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○見積による積算をし入札を執行した結果、予算規模及び事業内容は適正であった。 ○費目、使途については事業執行のために必要な額を算定及び書類等により確認し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－①	フラワーロードプロジェクト推進業務		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)-ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	年間を通じて休耕地や沿道沿い等に四季を通じた植栽を行い、フラワーアイランドとして県内外へアピールし観光上の向上に努める。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,235	5,517	5,170		
	(b)予算現額	5,350	4,736	5,798		
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,885	▲ 781	628		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	5,350	4,736	5,798		
B. 執行済額		5,350	4,736	5798		
うち交付金充当額		4,279	3,789	4638		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初の計画よりプランターの数を増やしたため628千円の増額となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
主要幹線道路へ花の苗:2,400本	目　標	(　2,400本　)	(　2,400本　)	(　2,400本　)	(　　)
	実　績	2,400本	2,400本	2,400本	
プランター100個設置	目　標	(　200個　)	(　100個　)	(　100個　)	(　　)
	実　績	200個	100個	150個	
達成状況説明	花の苗(ベゴニア)2,400本、プランター150個を購入し、主要幹線道路へ四季を通じた植栽を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
・主要幹線道への配置計画整備率100% ・花の苗7,200本植栽 (H24・25　4,800本、H26　2,400本)	目　標	(　　)	(　2,400本　)	(　2,400本　)	(　2,400本　)	(　　)
	実　績		2,400本	2,400本	2,400本	
・プランター400個 (H24・25　300個、H26　100個)	目　標	(　　)	(　200個　)	(　100個　)	(　100個　)	(　　)
	実　績		200個	100個	150個	
進捗状況説明	平成24年度から26年度までプランターを450個設置し、花の植栽を行ったことで景観の向上を図る事ができた。また、来村者が多いゆり祭り時期にはゆりの球根を植栽するなど、行事等にあわせた植栽を行い、県内外へのフラワーアイランドのPRに努めた。					

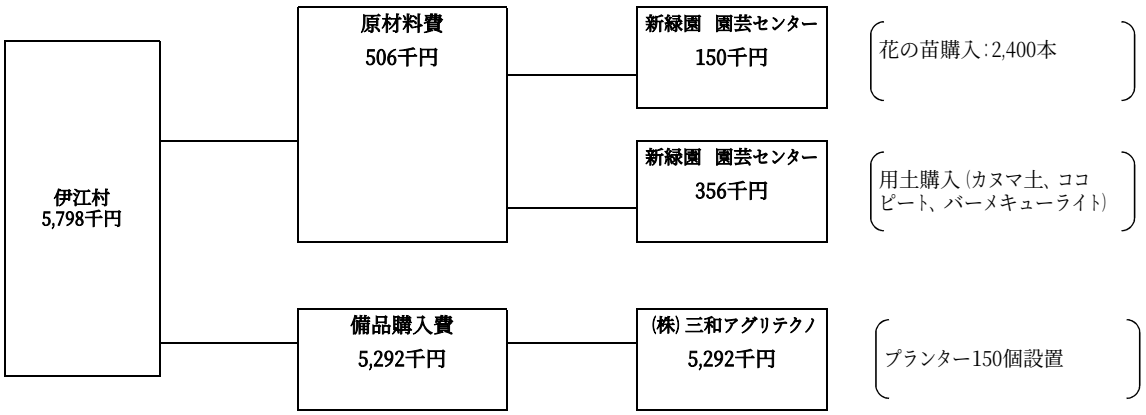
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・夕日とロマンのフラワーアイランドとして、毎年ゆり祭りやハイビスカス祭りを開催し県内外へアピールしているが、祭り以外の時期には花が少ないという課題があり、主要沿線道に四季を通じた花を植栽し課題を解決する必要がある。 ・主要沿線道にプランターを設置し、花を植栽することができたが、植栽及びプランターの維持管理計画を整える必要がある。	・本事業にて年間を通し花を植栽したことで、ゆり祭りや、ハイビスカス祭り以外の時期にも沿道を花で飾る事ができ、花が少ないという課題を解決できた。今後もフラワーアイランドをPRするため、プランターの管理や、多種の植栽計画等を検討する。 ・夏場はポーチュラカ、秋にはベゴニア、春先にはテッポウユリを植栽したが、多種の植栽も計画し、維持管理に努める。

今後の取り組み方針

今後も各団体と協力し、四季を通じた植栽を行い、来村者の多い伊江島マラソンやゆり祭り等の時期にあわせた花を植栽しフラワーアイランド伊江島としての観光振興に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,798	5,798	4,638	1,160	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	村花･世界のゆり植栽推進業務		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－⑵-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	村花･世界のゆりを植栽し、花の島づくりを推進する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,100	3,131	3,000		
	(b)予算現額	899	2,996	2,980		
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,201	▲ 135	▲ 20		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	899	2,996	2,980		
B. 執行済額		899	2,996	2980		
うち交付金充当額		719	2,396	2384		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初予定を下回る金額で契約したことで２０千円減額となったが、予定した事業内容は全て執行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
･てっぽうゆり球根50,000球購入植栽	目　標	（ゆりの球根購入30,000球）	（ゆりの球根購入30,000球）	（ゆりの球根購入50,000球）	（　）
	実　績	ゆりの球根購入30,000球	ゆりの球根購入50,000球	ゆりの球根購入50,000球	
･世界のゆり球根20,000球購入植栽	目　標	（　）	（世界のゆり球根購入30,000球）	（世界のゆり球根購入20,000球）	（　）
	実　績		世界のゆり球根購入20,000球	世界のゆり球根購入20,000球	
達成状況説明	昨年に引き続きテッポウユリの球根50,000球、世界のゆりの球根20,000球を購入しゆり祭り会場であるリリーフィールド公園に植栽した。花の咲き具合等も好評で祭りイベントの向上を図ることができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
･伊江島ゆり祭り来場者　34,000人	目　標	（　）	（ゆり球根購入30,000球）	（34,000人）	（34,000人）	（　）
	実　績		ゆり球根購入30,000球	31,000人	31,000人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	球根の更新を行ったことにより花の咲き具合もよく、来場者がもっとも多くなるゴールデンウィーク中に満開の花を咲かすことができた。20回の記念祭りにふさわしく天候にも恵まれ世界のゆり75品種も色とりどりの花を咲かせ来場者に好評で花の島づくりを推進することが出来た。しかし、来場者数目標達成には届かず、人気品種の球根導入や植栽及び装飾方法、イベント･告知内容の充実も含めた特色あるゆり祭りを展開することが、新規来場者やリピーターの増員に繋がるものと考え、更に創意工夫を凝らして誘客を図っていく必要がある。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・古い球根では花の輪数も少なく疫病にかかりやすい。植栽した他の球根へも疫病が広がる事から今後も新しい球根を更新していく必要がある。 ・球根を更新した事により祭り全体のボリュームは良くなったが、若干、畑によって咲き具合にばらつきがあるため、購入する球根のサイズを一定にしばらつきを抑える必要がある。 ・来場者数目標を達成するために世界のゆり75品種だけでなく、種苗業者と調整を行い、新たに植栽できる品種が無いか検討し、他の地域では見られないような品種を導入することで祭りの目玉として観光客の誘客に努める必要がある。	・球根の更新、選別を徹底的に行い、優良品種育成を図る。 ・優良品種の球根が導入できたため、一定量の生産が見込めることから、球根サイズの一定化をはかり、咲き具合のばらつきを抑える。 ・新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努める。

今後の取り組み方針

今後、新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努め、また一定サイズのテッポウユリの球根を導入することで会場全体のボリュームアップを図り来場者数目標の34,000人を達成できるよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,980	2,980	2,384	596	0

伊江村
2,980千円

→ 原材料費
2,980千円

→ 新緑園　園芸センター
2,980千円

（球根購入：テッポウユリ50,000球
：世界のゆり20,000球）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定した業者は、7万球もの多量の良質な球根を短期間に調達できる唯一の業者であり、選定は妥当であると考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、金額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－③	名所･景勝地等案内板設置工事		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光地に施設名称板、観光説明板を設置し観光客受け入れ態勢を強化する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	17,133	29,949	14,000		
	(b)予算現額	16,170	25,200	14,904		
	(c)増減額(b-a)	▲ 963	▲ 4,749	904		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	16,170	25,200	14,904		
B. 執行済額		16,170	25,200	14,904		
うち交付金充当額		12,936	20,160	11,923		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初、施設名称板が片面印刷の予定だったが観光客や、村民からの意見もあり、より見やすいよう両面から見える施設名称板にしたため、予定より904千円の増額となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
･施設名称板8基設置 ･説明案内板6基設置	目　標	(　32箇所　)	(　39箇所　)	(　14箇所　)	(　　)
	実　績	32箇所	28箇所	14箇所	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：今年度は名称案内板8基(城山東登山口、城山南登山口、伊江港ターミナル、伊江村青少年旅行村伊江ビーチ、ゴヘズ洞穴、リリーフィールド公園、ハイビスカス園、芳魂之塔)、説明案内板6基(上地太郎誕生の地、アハシャガマ、ゴヘズ洞穴、具志原貝塚、芳魂之塔、ナガラ原第3貝塚)の設置を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
村内観光地等導線の配置計画整備率100% (3年間設置目標) 誘導案内板50基(H24　30基H25　20基) 施設名称板10基(H24　2基H26　8基) 説明案内板9基(H24　2基H25　1基H26　6基) 総合案内板7基(H25　7基)	目　標	(　　)	(　32箇所　)	(　39箇所　)	(　14箇所　)	(　　)
	実　績		32箇所	28箇所	14箇所	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：平成24年度から平成26年度にかけ74基の整備を行う予定で事業を行ってきた。平成24年度には32箇所の看板設置を行い、平成25年度には村道を中心に28ヶ所の設置を行った。平成26年度は残りの14基(名称案内板8基、説明案内板6基)を設置し観光客受け入れ態勢を強化した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客受け入れ態勢を強化するために県道及び、村道から村内の名所や景勝地等に誘導案内板、総合案内板を設置したが、観光客等の意見をアンケート調査し、観光地への導線の強化を図る必要がある。	・本事業において当初計画していた観光案内板の設置することができた。今後、観光協会及び地域団体と連携し、観光客に対してアンケート調査を行い、観光客目線での看板設置の必要性があるか検討を行う。

今後の取り組み方針

観光地に施設名称板、観光説明板を設置したことにより観光客受け入れ態勢が強化された。今後、観光協会及び地域団体と連携し観光客に対してアンケート調査を行い、観光客目線での看板設置の必要性があるか検討を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,904	14,904	11,923	2,981	0

伊江村 14,904千円 ― 工事請負費 14,904千円 ― (株) 交建企画 14,904千円 （案内板設置工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○当初予算より904千円の増額となったが、村民や観光客からの意見を取り入れ、より良い案内板に改良した為の増額であり、事業内容に見合った適正な規模だといえる。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－④	集客イベント活性化支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)
事業内容	地域外からの集客を想定したスポーツ、文化、観光イベントの実施に付帯するテントや音響設備等の環境を整備し、集客の増加を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	15,680				
	(b)予算現額	19,276				
	(c)増減額(b-a)	3,596				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	19,276				
B. 執行済額		19,276				
うち交付金充当額		15,421				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予算より3,596千円増額(パワーテント･音響機器等)となったが、事業内容追加や機能充実を図るためであり、事業内容は全て執行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
パワーテント･音響･照明機器購入	目　標	（　一式購入　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	購入済			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	
	イベント実施に付帯するパワーテント3基(10m×10m)と発電機(100kVA)、音響･照明機器一式を導入した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
パワーテント･音響･照明機器購入	目　標	（　）	（一式購入）	（　）	（　）	（　）
	実　績		購入済			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	
	イベント開催においては対応可能な施設や機材がなく、パワーテント3基、音響照明機器一式を導入したことにより、マラソン大会や伊江島ゆり祭り等イベント時に有効かつ効果的に活用することができ、イベントの集客による地域活性化と観光振興に努めていく。

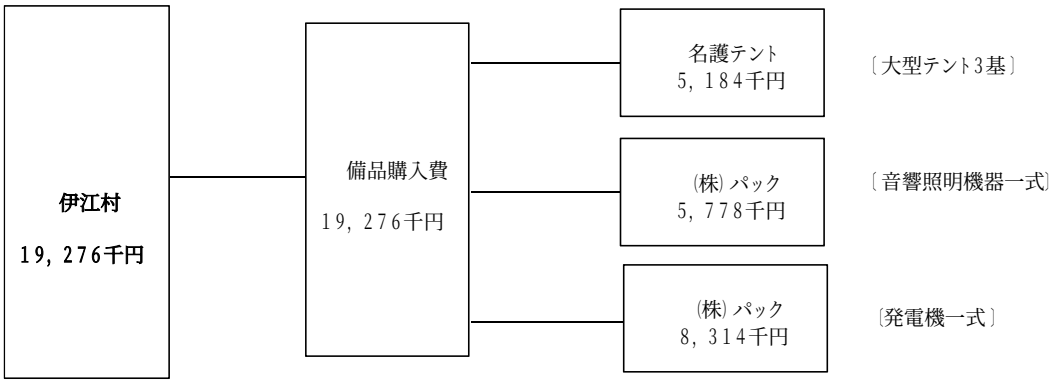
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・スポーツ、文化、観光イベント時に来場者の安全確保とイベントの充実を図るために防暑雨天対策等が必要である。また、これまで村外からパワーテントを長期間リースをし、経費を要していた経緯や設置に時間を要していたことからパワーテントが必要である。 ・イベント時における音響照明機器は一部村外から借用するなどの対応だったが、イベントの充実を図るうえからも機器一式が必要である。	・パワーテントの購入により、これまで課題であった防暑雨天対策等が解消され、イベント時の安全性や集客が見込まれる。今後の新たなイベントの創出により活用をしていくよう努める。 ・機器性能が充実し、ゆり祭り等のイベント時には効果的に活用することができた。新たなイベントの創出や村内行事に有効に活用できるよう努めていく。

今後の取り組み方針

・スポーツ及び文化、観光イベント、村行事によるパワーテントや各機器等の活用を推進していく中で、機材の設置や操作ができる村内技術者の育成を図り、コストの軽減等に努めていく。
・機能に優れた備品確保により機能効果を演出することができ充実したイベントの開催をすることができる。そのことにより集客が見込まれ、地域活性化や観光振興に大きく寄与することができる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,276	19,276	15,421	3,855	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札方式で行い、妥当な執行である。 ○事業内容追加となったが、見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－⑤	地域認知向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－⑵－ウ 観光客受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－⑴
事業内容	観光･物産の対外戦略を支援するため、地域キャラクターを公募等で選定し、地域認知向上戦略の一助として活用する。各種イベントや地域ＰＲに向けたツールとして制作する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,000				
	(b)予算現額	4,849				
	(c)増減額(b-a)	▲ 151				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	4,849				
B. 執行済額		4,849				
うち交付金充当額		3,879				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予定を下回る金額で契約したことで151千円減額となったが、予定した事業内容は全て執行した。 ※計画期間をH26～H27としていたが、H26に修正				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
地域キャラクターの公募･制作	目　標	（　公募･制作　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	公募･制作済			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：認知向上を図るために村内外(県外含む)にＨＰや紙面、マスコミ等で募集を呼び掛け、応募総数621点から決定した。本村のイメージアップにつながる作品の選定をするうえから、伊江村イメージキャラクター選定委員会を設置し、キャラクターの選定等を検討･決定を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
地域キャラクターの制作完了	目　標	（　）	（2体）	（　）	（　）	（　）
	実　績		2体			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：地域認知向上や本村のイメージアップ、観光･物産の対外戦略を図るうえからも、県内外に宣伝広告することができるようになった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	県内外に地域認知向上を図るためにキャラクターデザインの公募や着ぐるみ制作を行った。今後は、物産展の開催による地域認知向上やキャラクターを活用した商品開発等を推進していくことが必要である。	イベントへの積極的参加や情報発信により本村の地域認知向上につながると考える。また、村内企業との連携による商品開発やパッケージ等によるキャラクターの活用を推進し、地域認知向上や観光振興に努めていく。

今後の取り組み方針

・観光協会等と関連機関との連携を図り、本土高校生修学旅行（民家体験泊）の入村及び離村時にキャラクターを活用し、本村に対するイメージアップの地域認知向上に努め観光振興に貢献していく。
・村内企業との連携を図り、キャラクター活用による商品開発を進め、観光・物販対外戦略を展開しながら地域認知向上に努めていく。キャラクターの効果的な活用の中で本村のイメージアップにつながるよう長期的な戦略を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,849	4,849	3,879	970	0

伊江村
4，849千円

委託料
4，849千円

（株）エマエンタープライズ
4，849千円

〔キャラクター公募・制作〕

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札方式で行い妥当な執行である。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	観光客誘客環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	観光客が安心、安全、快適に村内観光施設等を利用できるよう、炎天･雨天時の修学旅行、各種団体客が全体で入村、離村の集会が可能な全天候型の集会施設の整備や青少年旅行村内炊事場の設置、ハブクラゲネットの設置など観光地としての環境整備及び機能拡充を図る。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	135,400				
	(b)予算現額	145,070				
	(c)増減額(b-a)	9,670				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	145,070				
B. 執行済額		145,070				
うち交付金充当額		114,786				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		増額9,670千円発生しているが、主な原因として村内観光地トイレ工事に追加工事が加わったことが要因となっている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
①青少年旅行村内炊事場設置工事 ②リリーフィールドゆり展示棟工事 ③村内観光地トイレ工事 ④伊江港多目的集会施設工事 ⑤ニーバンガジュマル施設整備工事 ⑥アハシャガマ設備工事	目　標	（　実設計及び整備　）			
	実　績	実施設計 整備完了			
⑦ハブクラゲネット設置 ⑧トラクター購入	目　標	（　備品購入　）			
	実　績	備品購入完了			

達成状況説明

･一部の観光施設工事について、天候不良や建築機材の手配状況に合わせた現場進行を余儀なくされた為一時期若干の遅れが生じたが、工期の延長により年度内に整備することができた。備品の納入についても、適時に設置する事ができた。

･ニーバンガジュマル施設整備工事については、用地購入が困難となった為、実施不可となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
①キャンプや野外活動に必要な炊事･調理スペースを利用者のニーズに即したキャンプ場炊事場工事。 ②数々の原種、園芸品種を植栽展示する展示圃場施設の整備 ③利用者の利便性向上のため、村内各所の観光地のトイレを和式から洋式に整備 ④炎天･雨天時の修学旅行や各種団体観光客の全体で行う入村･離村等の集会を行うための施設を整備する。 ⑤ニーバンガジュマル施設を駐車施設の整備 ⑥アハシャガマにおける見学や交通の安全性を確保のため防護柵設置	目　標	（　）	（実施設計及び整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計 整備完了			
⑦伊江ビーチに海洋危険生物防護ネットを整備 ⑧伊江ビーチの海岸漂着物等を効率的に除去し、ビーチ及び旅行村内を整備するためのトラクター購入	目　標	（　）	（備品購入）	（　）	（　）	（　）
	実　績		備品購入完了			

進捗状況説明

･村内の観光施設を整備したことにより、以前よりも観光客又は修学旅行といった各種団体客が安心･安全･快適に村内を観光してもらう受入体制を強化することができた。更に関係機関との連携強化を図り、村内を訪れる観光客や民泊等の方々に施設利用の周知を行う。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・伊江村には数多くの観光誘客施設があり、年間通して多くの観光客が訪れるが、ここ数年観光入客数が伸び悩んでいるところです。そこで、施設の機能拡充を図ることにより、よりよい観光客の満足度向上、受入体制を強化する必要がありました。 今回観光施設の整備又は備品の購入を行ったことにより、更なる伊江島観光への満足度の向上と清掃管理の作業効率への促進につなげたい。	・今回一部の観光施設を整備したが、そのほかにも年数が経ち、整備、機能拡充の必要な施設がいくつかありますので、観光協会や商工会、区長会等の地域と連携し、地域の目線から見た観光誘客施設の意見を取り入れながら、改善及び修繕を行い、更なる観光誘客施設の向上を図りたい。

今後の取り組み方針

伊江村には数多くの観光誘客施設があり、年間を通して多くの観光客が訪れるので、今後は観光協会や商工会、区長会等の地域と連携し、また観光客からアンケート調査等を実施して、地域及び観光客の目線から見た観光誘客施設の意見を参考にして、改善及び修繕を行い、更なる観光誘客施設の向上を図りたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
145,070	145,070	114,786	30,284	0

伊江村 145,070千円

委託料 12,744千円

- 照屋建築環境設計　1,836千円　（ゆり展示棟設計業務）
- 照屋建築環境設計　2,916千円　（村内観光地トイレ設計業務）
- (有) 大成プラン　1,836千円　（青少年旅行村炊事場建築設計業務）
- (有) ｼﾋﾞﾙｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ　1,404千円　（青少年旅行村炊事場土木設計業務）
- 照屋建築環境設計　1,404千円　（村内観光地トイレ工事管理委託業務）
- (有) 大成プラン　810千円　（青少年旅行村炊事場工事管理委託業務）
- ｷﾝｼﾞｮｳｹﾝﾁｸｽﾀｼﾞｵ　2,538千円　（伊江港屋根付き荷さばき施設工事管理委託業務）

工事請負費 123,444千円

- (有) ｴﾑｴｰﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ　21,924千円　（ゆり展示棟工事）
- (有) 玉城建設　27,324千円　（村内観光地トイレ工事Ⅰ工区）
- (有) 丸山組　12,960千円　（村内観光地トイレ工事Ⅱ工区）
- 共立建設株式会社　17,064千円　（青少年旅行村炊事場工事）
- 共立建設株式会社　1,944千円　（アハシャガマ整備工事）
- (有) 仲宗根組　42,228千円　（伊江港荷さばき施設建設工事）

備品購入費 8,882千円

- 光オートサービス　3,590千円　（トラクター1台購入）
- 鹿児島漁網株式会社沖縄出張所　5,292千円　（ハブクラゲネット1式購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は入札より選定しており、妥当であったと考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4	衛星船舶電話購入設置補助事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 -(7) - ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	伊江村役場　農林水産課	事業実施(予定)年度	平成２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(6)

事業内容

現在、漁業者が所有する衛星船舶電話は通信方式の変更で平成26年3月末で使用することができなくなる。通信方式の変更に伴い、高額な衛星電話の購入が必要となるが、昨今の燃油コストの高騰や魚価の低迷のなか、漁業者への更なる経済的負担の軽減及び安全な操業を確保するため、漁船へ衛星電話の設置補助を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	17,550				
	(b)予算現額	17,550				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)	17,550				
B. 執行済額		17,010				
うち交付金充当額		13,608				
次年度繰越額		-				
執行率（%）(B/A)		96.9%				
予算の状況の説明		当初予定していた補助額に対し、未設置者(廃業者)が出たために補助額の変更が生じた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
船舶電話の設置:30台(隻艘)	目　標	(　30台　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	25台			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：当初の目標より5台の設置ができなかったのは、漁業者の廃業により減となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
衛星船舶電話の設置:30台(隻艘)(対象:漁業協同組合所属96隻艘中、ソデイカ・マグロ漁を行う30隻艘)	目　標	(　)	(　30　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		25			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：伊江村漁業協同組合へ補助を行い、衛星船舶電話の購入設置を行ったことで遠方漁業の緊急時等における連絡手段を確保することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	衛星船舶設置事業を推進するにあたり、電話機の機種や通話料金等の選定に伴い、伊江漁協と調整をしながら漁業者の希望調査を行い今回の事業がスムーズに実施できた。今後は伊江漁協と漁業者において導入機器の適正な管理が必要となる。	昨今の通信機器が日々進化している中で、船舶電話においても今後とも漁協や漁業者と情報を共有していく必要がある。また、管理状況等も確認し適正な管理活用を行う必要がある。

今後の取り組み方針

今後も、船舶電話機材の管理体制の確認を行い、操業時の安全確保を行うとともに伊江漁業協同組合や漁業者と連携し事業効果の検証を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,412	17,010	13,608	3,402	3,402

伊江村
17,010千円

補助金
17,010千円

伊江漁業協同組合
17,010千円

（衛星船舶電話購入設置補助事業
25台）

（組合員負担分（交付対象外経費）
3,402千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○設置業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の５％内であり適正な規模であった。 ○受益者である漁協組合は総事業費の2割弱を負担しており妥当であった。 ○予算規模は、予算に見合った妥当な規模だと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5－①	乳用牛繁殖雌牛更新事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	伊江村酪農経営の安定化及び村畜産業における乳生産量の向上を図るため、2産(4歳)以上した母牛を淘汰し地域保留や県外から導入した優良繁殖雌牛(素牛)に対して、補助金を交付し、安定した生乳出荷を行う事で、信頼性のある産地づくりを図る。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,000				
	(b)予算現額	3,200				
	(c)増減額(b-a)	▲ 800				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	3,200				
B. 執行済額		3,200				
うち交付金充当額		2,560				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初、20頭の更新を予定していたが4頭分の予算800千円を減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
乳用繁殖母牛の更新　20頭	目　標	(　20頭　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	16頭			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：当初更新予定の20頭のうち2戸農家で繁殖素牛の導入及び自家生産保留牛の該当が無く、全体で16頭の更新となった。
4頭の更新が減となったのは県内外における素牛価格の高騰と自家生産において、流産、死産が重なったことが要因とされる。
今年度において更新した16頭が今後本村における生産泌乳量の増加と乳質改善に寄与していくことが期待される。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
活動目標指数(年間:20頭更新)の達成(今年度において、20頭の乳用経産牛を更新し、全体計画のうち20%の更新率を成果目標とする。またこれにより、泌乳量増加や乳質改善が図られ本村の畜産業の振興に繋げる。)	目　標	(　)	(　更新20頭　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		更新16頭			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：当初更新予定の20頭のうち2戸農家で繁殖素牛の導入及び自家生産保留牛の該当が無く、全体で16頭の更新となった。
4頭の更新が減となったのは県内外における素牛価格の高騰と自家生産において、流産、死産が重なったことが要因とされる。
今後、更新した16頭が本村における生産泌乳量の増加と乳質改善に寄与していくことが期待される。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村における酪農業において、乳生産牛の高齢化が問題となっており、年間乳量の低下や乳質異常、素牛価格高騰等もあり酪農家の経営を圧迫していた。そこで、高齢牛を淘汰し、素牛導入を図ることで、乳生産牛の若返り促進に取り組んだ。 全国的な素牛頭数の減少により、素牛市場価格が大幅に高騰しており、今後事業を推進していく上で農家の負担が大きくならないか懸念される。	素牛市場価格の高騰で更新が厳しい現状となっているが、高齢牛の継続飼養における収益性の低下や素牛生産における事故等を減少させていくことが今後の改善策として挙げられる。

今後の取り組み方針

素牛市場価格の高騰で更新が厳しい現状となっているが、高齢牛の継続飼養における収益性の低下並びに素牛生産における事故防止対策を徹底し、繁殖素牛の確保と生産乳量の増加を図り、本村の乳用牛振興に努めていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,200	3,200	2,560	640	0

伊江村
3,200千円

→ 乳用牛繁殖雌牛更新事業助成金
3,200千円

→ 酪農家4戸
3,200千円
事業費：3,200千円
交付金：2,560千円
市町村：　640千円

（乳用高齢牛の更新一頭につき、一律200千円の助成金交付。(導入経費の1/3助成)）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当であると考えている。 ○高齢牛の淘汰促進を促し生産性の向上や乳質改善に努めており助成額は妥当だと考えている。 ○費目・使途については、素牛生産並びに乳生産を図るまでの経費を考慮し一律助成をしており適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5－②	優良繁殖雌牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	子牛の生産性向上並びに畜産業の新規担い手や後継者育成のため、県内･外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入した伊江村和牛改良組合員に対して、補助金を交付し、経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図る。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	30,000				
	(b)予算現額	30,000				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	30,000				
B. 執行済額		30,000				
うち交付金充当額		24,000				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初、１００頭の導入を予定していたが、交付金上限額を下回った導入牛の予算残額について、二次配分交付決定を行い実績では、１０６頭の導入数となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
優良繁殖雌牛の導入	目　標	(　100頭　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	106頭			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：伊江村肉用牛繁殖農家経営の更なる向上の取組に基づき、県内･外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入し導入した伊江村和牛改良組合員に対して、補助金を交付し経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図った。これにより今後導入した優良繁殖雌牛が子牛を生産し、本村の素牛生産地としての更なる躍進と優良血統牛群の形成を期待できる。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
活動目標指数(年間100頭導入)の達成(今年度において、優良繁殖雌牛を100頭導入し飼養頭数拡大及び、優良遺伝生産子数の増加が期待され、市場性の向上並びに本村の畜産振興を図る。)	目　標	(　)	(　導入100頭　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		導入106頭			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：当初の導入計画を上回り、県内外から多数の優良繁殖雌牛が導入された。今後、導入された雌牛への積極的な繁殖治療の推進と市場ニーズに沿った交配計画等を打ち出し優良繁殖雌牛群の形成を図っていく。また、更なる優良血統への切替を推進し今後も引続き導入を実施していく。

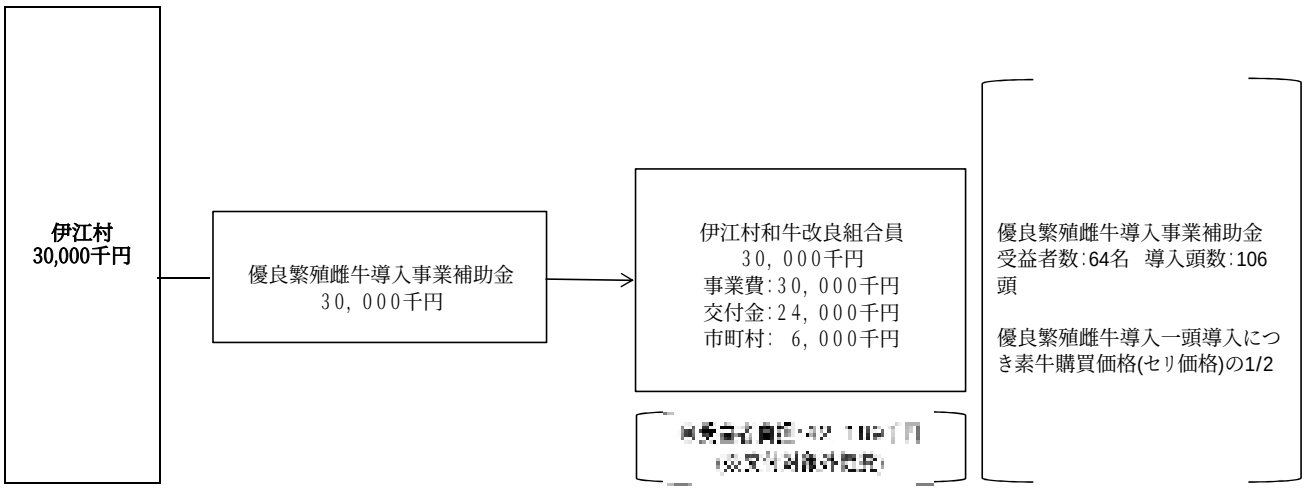
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	昨今の素牛生産数の減少により市場価格が高騰し、畜産農家の繁殖素牛導入が厳しい状況となっていた。そこで、県内外の優良繁殖素牛を導入するための購入補助金を交付し、素牛生産地としての更なる躍進と優良血統牛群の形成を促進するため本事業を実施した。 交付対象外経費(受益者負担)が大きいため、今後において円滑な事業執行が図られるか懸念される。また、現在の枝肉価格の高騰の影響により素牛価格も上昇していると考慮されるが、今後の枝肉市場の価格変動により生産素牛価格の下落等が発生した場合受益者の負担が更に大きくならないか懸念材料として考えられる。	補助率が1/2のため素牛セリ価格の上昇に伴い、受益者負担が大きくなっている。設定した事業計画を円滑に執行するためにも今後において補助率の見直し等の検討を図る必要性がある。

今後の取り組み方針

H26～H30年度にかけて500頭（100頭×5年）の優良繁殖素牛（雌）を導入予定であるが、事業負担率割合の見直し等を検討し、円滑な事業執行が図られるよう努めたい。また、既に導入した優良繁殖雌牛の今後の繁殖治療経過や飼養状況、生産された子牛の市場評価などを勘案し素牛生産地としての基盤強化を図りたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
72,189	30,000	24,000	6,000	42,189



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当だと考えている。 ○畜産農家の高齢化による廃業及び離農が多くみられ、年々減少していく繁殖雌牛の維持並びに増頭の為に本事業を推進しており、事業実績及び成果目標指数の達成状況を含め、適正な予算規模であったと考えている。 ○全国的な素牛数の減少により、素牛購買価格が高騰しており他の一括交付金事業と比較しても受益農家の負担率が大きい。 ○費目・使途については、補助金交付要綱に基づき補助額の確定時において支出等に関する要綱により確認した結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5－③	死亡獣畜冷凍輸送事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

疾病や事故等で死亡した家畜については、島内に処理施設がないため、埋却処分を行っていたが、島外へ輸送する為の冷凍輸送型コンテナを導入することで、本島施設での焼却処分が可能となり、畜産環境整備や衛生管理の向上を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　■その他　(備品購入)

予算額・執行額【単位:千円】(「交付金」＋「市町村負担」ベース)

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	13,500				
	(b)予算現額	18,597				
	(c)増減額(b-a)	5,097				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	18,597				
B. 執行済額		18,597				
うち交付金充当額		14,878				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：当初設計時において、附帯備品数を一式としていたが死亡獣畜輸送後における備品の消毒等に要する化製処理場(沖縄化製工業)での備品保管期間が生じるため、バッカン整備台数を2倍に増やし6台追加購入したための措置である。(バッカン1台は当初から予備)これにより、死亡獣畜冷凍輸送コンテナの円滑な輸送処理が実施できる。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
冷凍輸送コンテナの購入 2台	目 標	(2台)	( )	( )	( )
	実 績	2台			
ステンレス製バッカン 6台	目 標	(6台)	( )	( )	( )
	実 績	13台			

達成状況説明：冷凍装置付輸送コンテナ、ステンレス製バッカンを購入し、畜産環境整備や衛生管理の向上を図り、死亡家畜の島外輸送処理を行うことにより、環境対策や衛生管理を徹底していく。また、平成27年度から運営開始を目標とし条例や運営規定の整備を行っていく。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
冷凍装置付輸送コンテナ、ステンレス製バッカンを購入し、畜産環境整備や衛生管理の向上を図る。	目 標	( )	(衛生管理の向上)	( )	( )	( )
	実 績		衛生管理の向上			
	目 標	( )		( )	( )	( )
	実 績					

進捗状況説明：今年度において、冷凍装置付輸送コンテナを整備したことで死亡獣畜の新たな処理体制を敷設でき衛生管理の向上が図られた。今後は運営開始に向けて条例や運営規定の整備を図り、運営開始後は現在の埋設処理を廃止し、死亡獣畜を全て輸送処理できるよう努めていく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	疾病や事故等で死亡した家畜については、島内に処理施設がないため、埋却処分を行っていたが、島外へ輸送する為の冷凍輸送型コンテナを導入することで、本島施設での焼却処分が可能となり、畜産環境整備や衛生管理の向上を図る。そこで、死亡獣畜冷凍輸送コンテナの整備を図り、今後における埋設処理廃止に向けて農家への周知を図る。 当初設計時において、附帯備品数を一式としていたが死亡獣畜輸送後における備品の消毒等に要する処理場での備品保管期間が生じたため、付帯設備一式を追加購入した。 (備品の追加購入による備品購入改定契約を締結した。)	死亡獣畜冷凍施設を運営していくための条例及び運営規定の整備、その他輸送における事務委託や運営管理協定等を締結する必要がある。

今後の取り組み方針

死亡家畜の島外輸送処理を行うことにより、環境対策や衛生管理を徹底していくと供に農家への家畜衛生対策や環境対策等の周知に努める。
整備後の目標を島内における埋却処分0件を目標に運営を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,597	18,597	14,878	3,719	0

伊江村
18,597千円
→
備品購入費
18，597千円
→
株式会社アサヒプラント
18，597千円
→
死亡獣畜冷凍輸送コンテナ購入契約
(備品製造及び設置取付)

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約事業者は、指名競争入札で選定されており、妥当であると考えている。 ○不用額は無かったが、備品の追加購入契約が生じたため補正が必要となった。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6	伊江村海岸美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3-(11)-イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民サービスの向上
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

周囲を海で囲まれた村のにおいて、漂着ごみの処理及び自然環境の保全は重要であり、美しい景観を形成し観光振興を図るために小型焼却炉の導入及び付帯するスットクヤードの整備や大型のごみの破砕機を購入する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	60,000				
	(b)予算現額	54,383				
	(c)増減額(b-a)	▲ 5,617				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	54,383				
B. 執行済額		54,383				
うち交付金充当額		43,506				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：当初計画の事業を、全て実施した。また、活動目標、成果目標の達成状況からも適正な執行である。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
小型焼却炉の導入	目　標	(　1基　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1基			
建屋の整備	目　標	(　1式　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1式			
ミニショベル購入	目　標	(　1台　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1台			

達成状況説明：これまで漂着ごみは最終処分場にて処理(埋立)をしており減量化に課題を有していた。今後は種別毎に分別し焼却処分を行い適正に処分できることから、村の海岸美化に大いに貢献し良好な景観形成の推進となる。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
小型焼却炉導入、建屋整備、破砕機購入を行う。	目　標	(　)	(　100%　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		100%			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：小型焼却炉、破砕機及び建屋については全て納期内に業務を完了した。今後、漂着ごみの受け入れを行い、小型焼却炉の稼働を開始する。

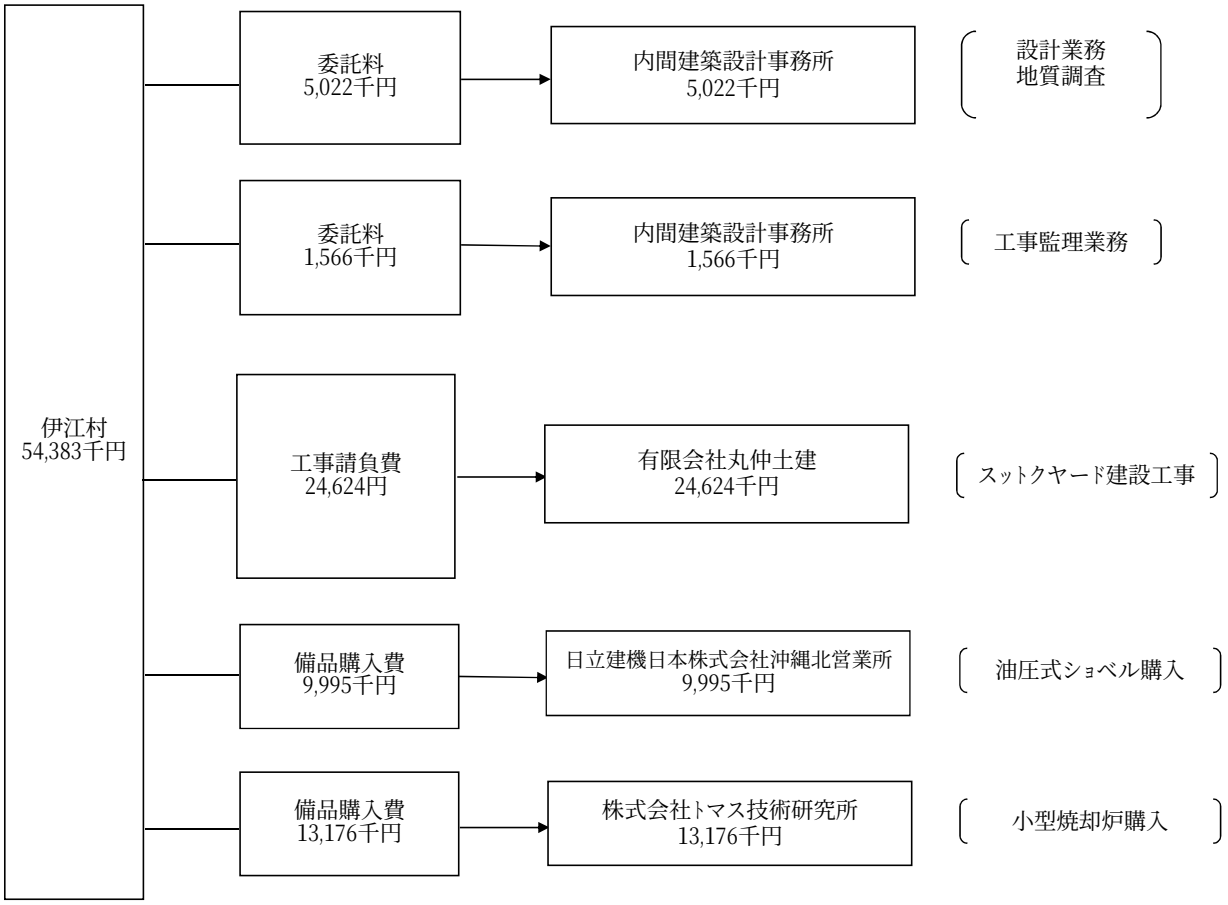
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村において漂着ごみは村の産業廃棄物最終処分場で埋め立て処分を行っており、当処分場はひっ迫している状況である。さらに漂着ごみは塩分を多量に含んでおり焼却処理施設での受入れは各機器の故障の原因となる。 そのため、小型焼却炉を導入し漂着ごみ等を処理する必要がある。又焼却炉を効率よく使用するためにも、付帯するストックヤードの整備・大型のごみの破砕機を購入する必要がある。	多量に塩分を含んだ漂着ごみの焼却処理施設の負荷を軽減するため、村内で発生する海岸漂着ごみは小型焼却炉により処理を行う。 これまで処理が困難であった大型の漂着物の処理を、ショベルにより破砕し処理の効率化を図る。

今後の取り組み方針

平成27年度より村内で回収される海岸漂着ごみを小型焼却炉により処理する。また、効果的に焼却を行うために大型の漂着ごみ等を破砕し効率化を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
54,383	54,383	43,506	10,877	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札となっており、妥当であったと考えている。小型焼却炉に関しては、ダイオキシン類を抑えるための特殊工法となっており価格を設定し契約を行った。 ○5,617千円の予算減額が生じているが、入札に伴う残であり、事業は適正に執行された。 ○費目、使途については事業執行のために必要な額を算定し書類により確認し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7	小型高速旅客船就航可能性調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3-(11) 交通･生活コストの低減
担当部課名	公営企業課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9
事業内容	離島住民の定住及び離島振興のためには交通手段の快適性･利便性の向上を図るとともに、船舶事業の健全経営による継続可能な運航体制が重要である。 既存カーフェリーと新たな小型高速船の航路体系の在り方の検討及びその採算性、小型高速船の就航に係る課題等の整理、本島への通勤･通学の可能性についての調査を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,000				
	(b)予算現額	5,184				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,816				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	5,184				
B. 執行済額		5,184				
うち交付金充当額		4,147				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札残により予算減額1,816千円となったが、計画通りの執行となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
地域性にあった既存カーフェリーと新たな小型高速船の航路体系の在り方の検証	目　標	（　調査実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査実施			
新航路の採算性、小型高速船の就航に係る課題等の調査検討	目　標	（　調査実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査実施			

達成状況説明：活動目標に設定した事項について、有効性のある調査結果が得られた。既存フェリーとの航路体系の多角的な設定による採算性の分析や、通勤通学を想定したエリア設定等、住民の声を最大限取り込み、客観的な調査結果が得られた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
小型高速船の航路体系の在り方の検討及びその採算性、小型高速船の就航に係る課題等の調査を行い、船舶事業の健全経営による継続可能な運航体制等を検証する。	目　標	（　）	（調査検証）	（　）	（　）	（　）
	実　績		調査検証			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：小型高速船の航路体系の検討(6プラン検証)、採算性の検証(前述6プランそれぞれの場合で検証)、課題の抽出･調査を体系的に行った。その結果、小型高速船が就航する事により利用者の利便性が向上することは概ね期待できる体制となるが、いずれのプランも大小あれど、投資額･経費増分を回収し、安定経営に至るまでの期間が長くなると結論付けた。今後も引き続き就航可能性について検討をする。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	小型高速船を就航させ、既存フェリーとの複合運航による早朝･夜間の運航回数及び昼間の運航を想定し、観光集客、通勤･通学に利用できる体制が構築できるかどうか検証するために以下の調査･検証を行った。 ･通勤･通学に船舶を利用するための通勤圏･通学圏の設定 ･小型船舶の選定と既存フェリーとの運航体系の整理･分析 ･航路･運航時刻設定と採算性の多角的検証･分析 ･住民アンケートによるニーズ調査 ･観光客アンケートによるニーズ調査 等、客観的前提でのニーズ分析を行い、就航時の運航計画も視野に入れた採算性の検証を行った。	･中古船の購入などの導入経費、既存フェリーを1船運航する場合の経費算出等を検討する必要がある。 ･荒天時等での欠航による通勤･通学への不安定要因の解消へ向けた運航体系の検討など、調査結果をもとに、更に必要な要因を分析･明確化し継続的に検証を重ねていく。

今後の取り組み方針

既存フェリーとの複合運航体系構築に伴う投資･経費増を考慮に入れると回収までの期間が長く、利便性向上と経営安定への課題が顕著になった。導入経費や運用経費を再度検証する。また、荒天時等での欠航による通勤･通学への不安定要因の解消へ向けた運航体系の検討など、調査結果をもとに、外部環境の変化や、新たなニーズを取り込み、継続的に検証を重ねていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,184	5,184	4,147	1,037	0

伊江村
5,184千円

委託料
5,184千円

株式会社　群計画
5,184千円

（小型高速旅客船就航可能性調査委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算の減額は25.9%と多かった。 ○費目･使途については予定通りであり、検査実施も行った。目的に即し適正なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8	伊江村自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3-(11)
					交通･生活コストの低減
担当部課名	公営企業課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな障害となっている。このため、自動車航送運賃コスト負担の軽減の助成を行うことで、定住条件を改善し、「住みよい村づくり」の振興を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,960				
	(b)予算現額	12,922				
	(c)増減額(b-a)	▲ 38				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	12,922				
B. 執行済額		12,922				
うち交付金充当額		10,338				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：当初、16,000件前後の利用を想定して開始したが概ね想定通りの利用者であった。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
車両航送に対する補助	目　標	(　支援実施　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績	支援実施			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：車両航送1台につき、運転手1名相当分として810円を割引実施した。住民への生活コストの負担軽減策として、自動車航送運賃への補助を行ったことにより住民の生活コストの低減に寄与できた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
車両航送に対する補助台数　年間約1.6万台	目　標	(　　)	(　1.6万台　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績		15,954台			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：当初に見込んだ目標台数となった。村内住民の交通手段である船舶にて車両航送負担軽減を行って定期的な医療等の通院や教育関係の大会等など気兼ねなく本島との行き来ができるようになり村内住民のコスト負担軽減に繋がったと考える。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな障害となっているため、自動車航送運賃コスト負担の軽減を行う。 ・事業の実施により、土・日、祝祭日等休日になると、利用者が増え、切符購入時の混雑が想定されるが、運航時刻等に支障をきたさないよう検討する。	・航送券売の更なる簡素化・合理化により利便性を向上し、利用数維持を目指す。 ・割引申し込みカードの発行や更新等、利用数低下につながらないよう周知を徹底する。 ・航送券購入の簡素化・合理化による混雑は解消に向かっているが、電子機器を使用しているため、停電等への対応をさらに検討する。

今後の取り組み方針

・航送券売の簡素化・合理化による利便性向上を図り、利用者維持を目指す。
・割引申し込みカードの発行や更新等、利用数低下につながらないよう周知を徹底する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,922	12,922	10,338	2,584	0

伊江村
12,922千円

補助金
12,922千円

公営企業課
12,922千円

（補助金
車両航送に対する補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は唯一の航路事業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく適正な規模と考える。 ○費目・使途については予定通りであり、実績報告・検査も実施した。目的に即し適正なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9－①	確かな学力を育む学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－５－(2)－ア
					教育機会の拡充
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(1)
事業内容	小、中学校への免許外教科担当者の解消と専科教諭の配置、児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせるための学習支援員の配置、更には発達障がいなど様々な障がいがある児童生徒に対し特別支援教育支援員などの配置を行い、自立し生きていくための土台づくりを行う。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	14,857	19,440			
	(b)予算現額	13,345	17,351			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,512	▲ 2,089			
	(d)繰越額	―	―			
	A. 計(b+d)	13,345	17,351			
B. 執行済額		13,345	17,351			
うち交付金充当額		10,300	13,881			
次年度繰越額		-	―			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初12人の支援員を予定。しかし、人材の確保が困難で11人の確保にとどまった。なお、そのうち1人が途中より県費職員へ採用となり退職したことなども増減額(▲2,089千円)の原因となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
学習支援員配置学校数:3校	目　標	(　3校　)	(　3校　)	(　　)	(　　)
	実　績	3校	3校		
学習支援員12名配置	目　標	(　11人　)	(　12名　)	(　　)	(　　)
	実　績	11人	11名		
達成状況説明	当初3学校に4人(計12人)の配置予定だったが、人材の確保が困難で(伊江小:3人、西小:4人、伊江中学校:4人)11人の学習支援員を配置した。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
・児童生徒(対象数380人)個々の習熟度に応じた学習支援体制を整えることにより、学習意欲の向上・学力の底上げを図る。	目　標	(　　)	(　380　)	(学習意欲の向上・学力の底上げを図る。)	(　　)	(　　)
	実　績		378	学習意欲の向上・学力の底上げを図る。		
県学力到達度調査において、正答率30%未満の児童生徒数の割合を減らし、村全体の学力向上を図る。	目　標	(　　)	(　　)	(正答率30%未満の減)	(　　)	(　　)
	実　績			未達成		
進捗状況説明	・目標の対象児童数は380名に対し384名おり101%となった。 ・平成26年度12月実施(中学校)2月実施(小学校)の県学力到達度調査における正答率30%未満の児童生徒の割合が小3(国語13.3%、算数0%)、小5(国語6.9%、算数7.0%、理科11.7%)、中2(国語5.9%、数学31.4%、理科21.1%、社会7.9%、英語19.1%)となっており、学力向上推進委員会の達成目標である「正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で30%以下にする」という数値目標を小3の算数、小5の国語、算数、中学校の国語、理科、社会、英語の教科において達成できた。支援員の配置により学力の底上げに効果を得ている。					

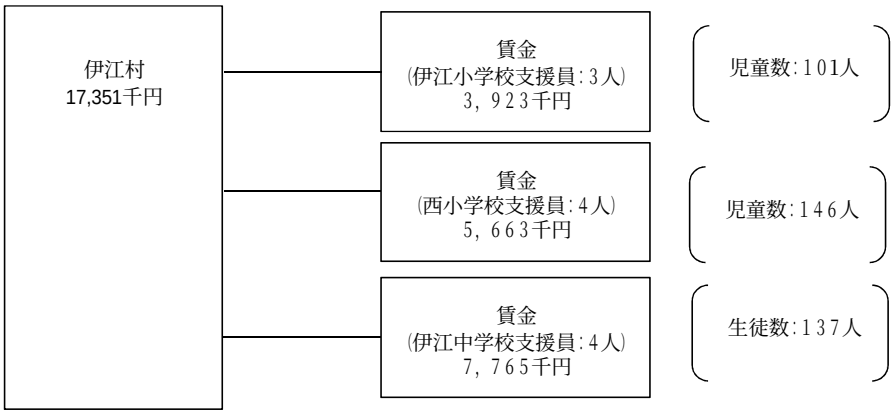
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・全国学力テストにおいて過去4年間（H19～H24）にわたり、全教科において全国の下位の状況が続き、学力を集中的に向上させる必要があった。そのため児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせる必要があった。 ・離島であるため、他地区からの希望者や地域の人材確保が難しいため、年度当初から支援員を確保できない可能性がある。 ・児童生徒の個々の段階に応じた適切な学習指導ができるよう、支援員の資質の向上を図る必要がある。 ・村外者から支援員を採用した場合の宿舎の確保が困難。	・支援員の資質を向上するために月に1回支援員の研修を行う。 ・人材確保、宿舎不足の解消に向け、次年度も継続雇用が可能か早めに把握し、広報活動を行ったり、宿舎不足解消のために、村内出身者で自宅通勤可能の者を採用したりするなどの方策を講じる必要がある。

今後の取り組み方針

・支援員の継続雇用が次年度も可能か1月中には把握し、人員不足が予想される場合は広報活動を行う等、早めの人材確保につとめる。
・早めに宿舎の確保をすると共に、村内出身者等で自宅通勤が可能な者を採用することで宿舎不足の問題を解消する。
・支援員の指導力の向上を図るため、毎月1回、学習指導方法などの研修を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,351	17,351	13,881	3,470	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定は有資格者（教員免許所得者）を選考し適正に処理できた。 ○12名の支援員の予算を確保したが、11名分の支出にとどまったが、適正に処理できた。 ○使途について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	９－②	各種大会派遣費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア
					教育機会の拡充
担当部課名	伊江村教育委員会	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	本村の児童生徒のスポーツ、文化活動等において、地区大会や県大会等への派遣旅費について助成する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,283	4,511			
	(b)予算現額	3,859	3,133			
	(c)増減額(b-a)	▲ 424	▲ 1,378			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	3,859	3,133			
B. 執行済額		3,859	3,133			
うち交付金充当額		2,800	2,507			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		派遣費事業総額及び派遣人数は増加しているが、県内離島や県外派遣が多くあり対象外経費が多く、見込額を下回る結果となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
各種大会派遣費の助成	目　標	(　670人　)	(　680人　)	(　　)	(　　)
	実　績	1202人	1966人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：児童･生徒の競技力の向上とともに、国頭地区代表や、県代表に選出される児童生徒が多く前年度及び当初目標数より大幅な増加となった。　中学生県外派遣　12名　小学生県内離島派遣40名　小学生県外18名派遣

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
各種大会派遣人数	目　標	(　　)	(　670人　)	(　680人　)	(　　)	(　　)
	実　績		1,202人	1,966人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：地区大会参加のみならず、地区代表や県代表として多くの大会へ参加し、様々な環境で活動を行うことにより、たくましく生き抜く力の土台や、競技力の向上、豊かな人間形成の向上につながった。

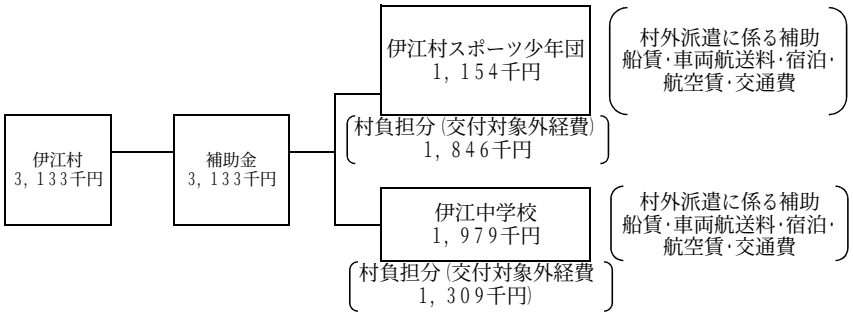
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・児童生徒の競技力向上に伴い、地区代表・県代表として派遣される際に、渡航費の半額は助成対象となり負担軽減となっている。しかし、県内離島や県外では日帰りが不可能なため宿泊代が負担となっている。また、競技力の向上に伴い、指導者の能力向上も必要である。	・県外、県内離島への派遣について宿泊費を対象外経費として半額補助とし、負担軽減へと繋げた。 ・指導者講習会等により、競技力の向上、指導者能力の向上を目指す。

今後の取り組み方針

派遣の実績が増えることによって児童生徒の競技能力の向上が図られ、中学校卒業後の自立へ向けて心身ともに成長できた。さらには家庭への負担も軽減された。　今後は離島の精神的負担を克服できるよう継続して派遣する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,288	3,133	2,507	626	3,155



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、村外派遣費助成の申請を行ったうえで、決定し選定しているので妥当である。 ○予算規模については、全ての大会へ派遣費助成を行うことができた為、適正であった。 ○受益者負担については、渡航費の一部を個人負担としており、妥当である。 ○費目・使途については実績報告時に領収書を確認・検査し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	